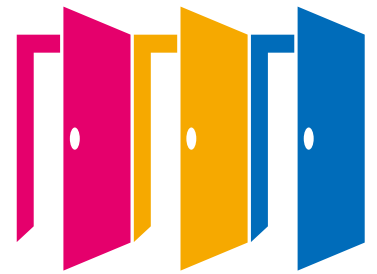


KOCHI 2020 ROTARY 2021 CLUB SINCE 1937



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度 RIテーマ

週報



Weekly report 第3465回 2021年6月29日 2021年7月6日発行

● 会長挨拶

皆さん、こんにちは。いよいよ本年度の例会も今回が最終日ということになりました。

まさに、この1年間を振り返ってみますと、コロナ禍で翻弄された1年でした。週報などを見てみると、去年の2月ぐらいまでは皆さんマスクなしで笑顔で写っておられます。それが、途中からマスク姿になり、最近では逆に、マスクを取って写っています。目は口ほどに物を言うといいますが、やはり口元が見える笑顔の方が嬉しさが伝わってくるように思います。

拙い会長でしたが、関幹事が本当に細々したところまで気がついて、助けていただきました。中田プログラム委員長には、予定も不規則になりましたが、素晴らしいスピーカーを呼んでいただきお世話になりました。綱渡りのような1年間を過ごしましたが、毎回、例会場に来ると60名内外の皆さん方が、忙しい中、お集まりいただいたことに、何ととっても私は勇気づけられました。本当にありがとうございました。

来年は、入交章二会長、中澤幹事のもとで、例会をより楽しく素敵なものにしていくということです。今後ともぜひご参加いただき、ロータリーを楽しんでいただきたいと思います。

1年間、本当にありがとうございました。



■ 本日のプログラム [7月6日]

会長運営方針・各委員会計画発表

会 長	中 村 裕 司
副 会 長	入 交 章 二
幹 事	関 雅 文
副 幹 事	中 澤 清 一
会報責任者	隅 田 和 稔

● ローターソング「四つのテスト」

● ご挨拶・ご紹介

◎今月退職される事務局の岡村恵子さんにお礼を贈呈

パートの期間が満了しましたので、こちらを去ることになりました。3年半、皆さまには大変お世話になりありがとうございました。今日はまた思いもかけず、このような素晴らしいプレゼントをすみません。感謝申し上げます。最後になりましたが、高知RCの益々のご発展と、皆さま方のご健勝を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。



◎新年度から、高知RCの事務局を担当していただく近森美菜さんです。よろしくお願いたします。

● 幹事報告

本年度、43回の例会が予定されていましたが、開催できたのは35回、約2割が開催できませんでした。中止になった事業は、職場例会、情報集会、夜間例会、IM、長期・短期プログラム、地区大会も縮小されて開催されました。唯一行われたのが社会奉仕委員会の事業のみでした。

これだけ仕事のなかった幹事も、歴代いなかったのではないかと考えています。草場の陰で、父が笑っているように思います。

中村会長には、適切にご指導をいただき会の運営がスムーズにできました。また、事務局の片岡さん、いろいろとご指導いただきました。会の運営には、皆さまに多大なご協力をいただきありがとうございました。何とか1年間、拙いながらも幹事を務めることができました。本当にありがとうございました。

● 前年度安光保二会長から、中村会長と関幹事に前役員章の贈呈



● 会長スピーチ

2020-2021年度 最終挨拶

中村 裕司 会長

いよいよ本年度の高知ロータリークラブの卓話も私で最後ということになりました。私は会社の方では現役を一応形の上で退いていますので、本当に細やかな、拙い、しかもラッキーな自分の人生を振り返って、ちょっとそんなことについて、例えば名前を付けるとすれば「我が良き人生」とでも題しましてお話をさせていただきたいというふうに思います。

まず、私は昭和28年、1953年の7月生まれで現在57歳、間もなく58歳になります。とんでもない間違いです、現在67歳で間もなく68歳になります。しっかりした高齢者であります。

仕事は中村農園と申しまして、主に花の球根、ユリが中心ですけれども、外国から輸入をいたしまして国内で花の産地に販売をするというような仕事をしています。お客様は北海道から沖縄県までいらっしゃいまして、極めてニッチな業界ですが、その中では代表的な会社でございます。私は球根屋としては2代目に当たりますので、私の話をする前に、創業者である私の父のことをちょっと、お話をさせていただきたいと思います。

父は大正14年に佐川町で生まれました。佐川町といいますと、牧野富太郎博士のご出身地で植物が好きで憧れておったようですが、丁度日本が戦争に向かっているときで、学校は高知工業に進みました。そして、機械を勉強して将来は飛行機乗りになって戦地へ赴くというようなことだったようです。徴兵検査も受けましたけれども、ぎりぎりのところで



兵役は免れて、小学校の代用教員を勤めました。以来、約10年ぐらいだと思いますけれども教職にあり、最後は高知農業高校で花の栽培について勉強していたようです。

考えてみますと、昭和20年代で、まだ戦後間もなくで食糧危機の時代ですので当時、花のことをやるということ自体が非常に先見性があったのかなあというふうにも思います。

そして26歳ぐらいで見合い結婚をいたしますが、母は結婚相手としては、サラリーマンで教員ならば1番安心じゃないかというふうに思って結婚をしたそうです。ところが、30になる前に突然教職を嫌になり、花農家になるんだということがあります。母も驚いたようですけれども、主人がそういうことを言うんで、それに従ったということです。

その頃、ユリという花に運命的な出会いがありまして、それから一生ユリと生涯を共にするということになります。そしてまた、大変これは運が良かったんだと思いますが、自分が栽培するための球根を長崎県の球根産地の方に買い求めに行きまして、上手く、少し仕入れができたそうです。そして、それを教え子たちに少し販売をしたのが昭和30(1955)年で、それを中村農園の創業ということに致しています。

母は急にサラリーマンの妻から農家になったわけですが、生涯父を助けて仕事を生きがいにしていました。それから66年が経ちますが、現在は私の長男と次男が引き継いでくれて、現在3代目に至っています。

私は、小さいころ父や母が遅くまで夜なべをしたり、それから食事をするときも花の話ばかりするのを聞いていまして、実は、農業は嫌で仕事と家庭とが分離したサラリーマンに憧れていたような気がいたします。私は、土佐中学、土佐高校を卒業しました。私たち、昭和47年に卒業しました土佐高の47回生で、当クラブの中では、広末さん、中澤陽一さん、久松さんが同級生です。中学、高校時代の6年間を通じて、これといって打ち込んだこともなく、県体の水泳に出ましたが予選敗退というようなことでした。

ただ、妙にませたところありまして親しい女の子と当時ラインなんかない時代ですから、交換日記なんていうことをやっていました。しっかりとした志望校もなく、受験勉強もそこそこだった私ですので、当然のこのように大学受験に失敗をいたします。ただ、その当時、団塊の世代の後で、1年ぐらいの浪人は当たり前に許されるような時代でしたので、私の方は特別落胆するでもなく、喜んでちょっといい過ぎですけども、憧れの東京の予備校に入ることになりました。そして、4人部屋だった寮に入りましたんですけども、それなりに頑張って勉強いたしまして、慶応義塾大学の経済学部に進学をいたしました。

ところが、1973年によく慶応大学に入りましたが、学校はバリケードで封鎖をされていて、入学式は中止、オリエンテーションもなく、秋になるまで授業も再開されま

せんでした。受験勉強から解放されて自由になって、元々遊び人の性格でもあります。4年生のある先輩から「中村君、就職のこと考えたらAの数なんか揃えなくていいよ」と。極端に悪い成績だったらそれが注目を引いて、なんでこんなに悪いの、なんかしてたのっていうふうに分かれるから、これが自分を売り込むチャンスなんだと、なんていうことを言われて私はその話を真に受けてしまいました。

因みに、73年というのはオイルショックがあった年で、トイレトペーパーの買い占めだとか、在学中の4年間で何と70%近い、いわゆる狂乱物価があった年頃であります。また、同年に江川投手が、法政大学にいたため、東京6大学野球で4年間で1回も優勝の経験がないという不遇な学年でもございました。

大学時代はクラブ活動に打ち込みました。ギターなんかで演奏しながら、いわゆるフォークミュージックというのを歌うクラブでしたが、グアム島へ演奏旅行に行きましたり、ペドロ&カプリシャスやチューリップの前座をつとめたこともありました。定期演奏会は郵便貯金ホールというところで行い、私はクラブの責任者でしたので、授業は休みがち、不真面目な学生生活ですけども、それでもやっぱり、人生で一番勉強したのは大学生の頃じゃないかと思えます。というのは、それまでの受験勉強っていうのは、テキストに線なんかを引いて覚えなきゃいけないことを覚えるみたいな勉強でしたけれども、初めて大学に入って、専門書を隅から隅まできちっと読んで理解をするという習慣は、その大学の時間に身に付けたように思います。

そして、私の人生にとって一番ラッキーだったのが妻と巡り会えたことです。妻は、広島出身ですが、大学で知り合ってから以来、かれこれ50年近くパートナーとして幸せに過ごしています。

さて、4年の夏が過ぎて就職活動が始まりました。先輩が言っていたのとは全然世の中様変わりしていて、73年のオイルショック以降、企業業績は悪化をし、戦後最悪の不況といわれて就職もままならない年でした。たまたま、面接をしてもらった数社の中から、明治生命(現在の明治安田生命さん)が私の悪い成績にまさに目を付けてくれて、いろいろと話を聞いてくれて内定をいただいて入社をいたしました。私が入社をした1977(昭和52年)というのは初めて大卒の初任給が、10万円を上回ったという年であります。

明治生命では、12年間お世話になりましたけれども、これは、後々の私の人生にとりまして大変かけがえのない学びの場となりました。12年間の内大半を支社や営業所という現場で過ごしましたが、会社を立派にする、営業所を立派にするという1丁目1番地は素晴らしい方を採用し、その方々を育成をしていくということを学びました。それはしっかりと身に付けて、私も3年間の僅かな営業所長の経験があ

りますが、そのときには、本当に一生懸命仕事をして、それなりの実績も残しました。保険会社というのは、当時業績を上げればそれだけ経費も多く配分してくれましたし、また、支社の方でも懸賞金みたいなのがあって、30そこそこの営業所長でも月々20万円くらい交際費が使えて、それを使って仕事を広げるというようなこともできました。1980年代というのはいわゆるバブル時代で「24時間戦えますか」というような時代です。

保険会社も凄かったのですが、今思い出すと、あるスナックで飲んでいたら、財務省で予算を組む人たちが来られまして、12月の下旬でしたが、とにかく、飲み方が半端じゃない、大騒ぎをしまして、そして、たった1時間ぐらいで最後、月月火木金金というふうに言うんですね。私はそれを聞いて、月月火水木金金じゃないですかと尋ねたら、水曜日は早帰り日で、そんなのは自分たちにはないから、ということでもどかどかとまた職場に戻っていかれるようなことでした。

私は明治生命の最後の2年間を立川支社で過ごしましたが、最終電車で帰宅するというのもしょっちゅうでした。立川支社のすぐそばに三菱銀行があって、私が帰る時間にも煌々と電気がついていて、不夜城じゃないかなというふうに言っていました。様々な問題とか悲しい事件もありましたが、まだ、その時代には、過労死だとかハラスメントというような言葉や概念はなかったように思います。

私の会社生活というのは非常に充実していましたし、身に余る評価と報酬もいただいていた。だけど、何故か、何処まで仕事をして、なんかやらされている感っていうのを感じるようになってしまいました。これは父の血筋なのかも知れません。それから、夫婦の対話もほとんどなくなってしまい、子供がたまに現れる父親を見て怖がるようになって、若干、家庭崩壊のようなことになりまして大変悩みました。また、今までちょっと鬱陶しく思っていた両親が、急に年老いて思えて変な話ですけれども、お墓はどうするんだろうとかそんなことも考えるようになりました。30代半ばというのは、丁度それからの人生をどう過ごすかというようなことを考え直すようなタイミングだったのかも知れません。

平成元(1989)年の3月末に明治生命を退職して、高知に戻りました。正確にいうと、年度末、保険会社はとても忙しくて私、4月1日の午前1時くらいまで仕事をしていました。そしたら、支社長が気が付きまして、中村、お前この会社の人間じゃないから早く帰れというようなことで、実は正確に言うとなんかそんなようなことでした。

私は、高校時代まで両親が花づくりをしていたのは見ていましたが、球根のことについては一切知識はありませんでした。ところが、この帰りました平成元年というのが絶妙の、実はタイミングだったんです。というのは、平成2(1990)年にオランダのユリの球根の取り扱いが自由化を一部されました。業界でまだ活躍してる先輩たちがいっぱいいたわけ

ですが、この新しいオランダ産の球根については取り扱いがなかったわけなので、私を含めた新人も、よーいドンスタートができるようになりました。それ以前は国内産の球根というのは季節性の商材で、それに対して、オランダの球根は凍らしておくとも周年供給ができるようになります。私は新人ながら、安定した周年の供給があれば、例えばお葬式だとか、いろんなパーティーなどで逆に需要が生まれるのではないかと思い、一生懸命取り組み始めました。現在、ユリという花は品目でいいますと、キクに次いでバラと第2位を争うような花材になっています。

さて、外国との取引なんで、どうしても英語が必要になります。私は受験英語は経験がありますけども、英会話というのは全く経験がありませんでした。当初は英語の話せる同業他社の先輩の力を借りたりしたんですが、いずれ自分でやらなきゃいけないというふうになるようになっていきました。今はいろんな勉強の仕方がありますけども、当時時間もなくて、私がやったのは、NHKの教育テレビで日本のニュースを英語に訳すという番組があり、真夜中の番組だったんですが、それを毎晩2年間ほど聞きました。そうするとだんだん耳に入るようになってきて、それからなるべく、恥ずかしながら片言でも英語を話すようにすると、何とか2年間ぐらいでオランダ人と英語で商談ができるようになりました。また、よく視察で現地へも行きました。その頃は、今から思うと余裕がありまして、オランダに行くついでに、ヨーロッパの各都市も随分回りました。遊びといえばその通りなんですけども、90年代から2000年代にかけて、お客さんを連れてよく視察旅行に行っていました。せっかくオランダに行くんだったらオランダだけではなくて、ヨーロッパのいろんな都市も見てもらおうというようなことで、下見の意味もあっていろんな町を回りました。

私、美術館巡りが大好きでして、フランスではルーブルとかオルセー、スペインのプラドあるいはピカソ、オランダではアムステルダムの国立美術館、ゴッホ美術館、ロシアのエルミタージュだとか大英博物館にも参りました。そんなこんなで楽しい思い出もたくさんありました。

2004年の7月、51歳でロータリークラブに入会をさせていただきました。これも本当に今から思うとラッキーでした。私はそれまで、保険会社と球根の世界しか知りませんでしたので、このロータリークラブの各界を代表するような皆さん方と巡り会うということは、本当に刺激にもなりましたし、また、著名な会社の皆さん方が、採用と育成ということに力を入れていらっしゃるということも分かりました。

当時、既に若干の業容の拡大に従って私の会社も人を入れていたんですけれども、社員同士の紹介であったり職安であったりとかから採用して、やっぱりそれなりの問題というものもありました。そんなときに巡り合ったのがケンジンの吉門さんでした。そして、吉門さんはお仕事柄もありま



して、いかに採用と育成が大事かということをお話をいただきまして、そのことが、私が明治生命時代に経験をしたこととジャストミートして、私どもも小さな会社ですけども、リクルート活動というのを始めるようになりました。

それまで、大卒の新卒の方を採用するなんていうことは実はなかったんです。どうかとは思いましたが、幸い応募してくれる学生さんもいて、1人2人と入社してくれました。私はそんな彼らに英語を勉強させたり、オランダに駐在を出して研修させるなど育成にも努めました。

すると、次第に会社の雰囲気が変わってきました。ちょっと言葉が過ぎるかも知れませんが、我が社にとって相応しくないような人が、なんとなく抜け落ちていって、気持ちよく働く職場環境ができてきました。今はその頃入社をした社員が30代後半から40代になり中心となって、会社を引っ張ってくれています。

そして2015年、創業60周年を迎えることを機会に、私は62歳直前で長男に社長を譲り、勇退をいたしました。というのが、折から母が体調を崩していましたので、1人っ子の私はなるべく母のそばにいてあげたいなと、そんな気持ちがありました。

そしてもう1人、森由枝さんともロータリーで知り合いになり、当社の社会保険労務士の顧問になっていただきました。社会保険のことはもとより、社員の福利厚生だとか働き方のこととか貴重なアドバイスもいただきましたし、健康面のことでは、社長たるものに年に1回の人間ドックぐらいでは不十分でPET-CT検査ぐらいは受けなさいと強く勧めてくれました。それで医大に通うようになったわけですが、50代の頃は全然どこも悪くなくて、果たしてこれは必要なのかなと思っていたら、今から5年前、異常が見つかり検査をしたところ、喉に悪いできものができていて、2ヵ月半ほど入院をして治療を受けました。幸い初期であったため手術を免れました。

今から思うと、比較的早めに発見できたので良かったの

ですが、これがもしPET検診を受けてなくて、もっと進行していたら手術ということになったかもしれませんし、患部が声帯に大変近い所でしたので、こうやって皆さんの前で話もできなくなっていたかもしれないと思うと、森先生にはほんとに感謝の気持ちでいっぱいです。

私自身がしんどい治療を受けながら、母のことが大変心配でした。亡くなる数年前から心臓を患い、入退院を繰り返して自分1人で生活もできなかったため、施設に入れてもらっていました。私は、毎日母を見舞っていましたが、入院中はそれもできず、本当に心配をしていました。ただ、幸か不幸か母は認知症を患っていて、会うと若干変なことを言うようになって、寂しさを感じることもないということでもちょっと安心をしました。私が退院をしたのが5月、待ってましたというように7月に母が亡くなりました。私は、これで高知に帰って来た一つの役割を終えたのかなと思いました。

最後に、今私は主に試験農場で若い社員と共に栽培と商品開発や情報発信ということに努めています。若い社員と過ごすのは本当に楽しいことですし、会社が許してくれるならば、もう少し会社に留まりたいと思っています。

それから、先輩には笑われるかも知れませんが、80歳以上まで生きたいなと思っています。というのは、実は中村家の男子で80を超えた人は歴史上1人もいないんです。父も77歳で亡くなり、概して中村家というのは早く結婚や子育てをして、早死にの家系のようです。何とか私はその記録を破りたいと思っていますし、ウォーキングだとかゴルフだとか健康にいいことも頑張っていきたいと思っています。このクラブには健康でご長寿の、私が目標とする先輩方がたくさんいらっしゃいます。

私もいよいよ今月でクラブの会長も終わります。少し肩の力を抜いて、ロータリーライフも過ごしていきたいと思っています。これからもどうかご指導をお願いいたします。ありがとうございました。



◇ 例 会 変 更 ◇

高知中央RC	7月 8日	夜間例会(城)	高知西RC	7月 9日	第一夜間例会(三)
高知ロイヤルRC	7月13日	夜間例会(旭)	高知北RC	7月19日	ロータリー休日(三)
高知ロイヤルRC	7月20日	ロータリー休日(旭)	高知中央RC	7月22日	ロータリー休日(城)
高知北RC	7月26日	夜間例会(三)			

※例会場ホテル：(三)…三翠園 (城)…城西館 (阪)…ザクラウンパレス新阪急高知 (旭)…ホテル日航高知旭ロイヤル

😊 ニコニコ箱 【敬称略】

- 高野 一郎 中村会長、関幹事殿 1年間にわたり、素晴らしいリーダーシップと温かい思いやりのある運営、本当にありがとうございました。また、この度、弊社が海外インフラへの取組に関し、第4回JAPANコンストラクション国際賞 国土交通大臣賞を賜りました。引き続き地産外商に努めます。ご指導よろしくお願いたします。
- 右城 猛 27日の日曜日には「知られざる偉人・広井勇 近代土木の先駆者」がテレビ高知で放送されました。また、高知放送では、高知大学地方創生推進士第1号の岩瀬(当社の社員)が紹介されました。ニコニコします。
- 三谷 康久 そこはかたなくニコニコしたい気持ちになりましたのでニコニコします。ニコニコ。
- 武樋 泰臣 1年間親睦委員長を務めさせていただきありがとうございました。コロナにより思うような活動ができなかったですが、台風のせまる中で決行したBBQで、全身ずぶ濡れになった中村会長、関幹事の苦笑いが忘れられません。毎週の例会に積極的に参加いただいた委員の皆さまに心から感謝です。1年間ありがとうございました。

🌸 7月のお祝い

(会員誕生日)	山崎広一郎	中島 和代	宮地公美子	久松 朋水	
	出来 輝喜	中村 裕司	南 範子	吉村 貴志	
	海治 勝彦	関 雅文	小笠原晃男	河野 弘訓	各会員
(配偶者誕生日)	小林 美樹	出口真由美	千代恵美子	中村美津子	
	入交ひろこ	森 佳子	出来 幸江	井上 英子	
	森本 綾子	野村 浩子	西山 由理	各会員配偶者	
(結婚記念日)	櫻井 克年	宮地公美子	各会員		



◇ 出 席 率 ◇					
	総数	出席	欠席	メイキャップ	出席率
6月29日	(-9)84	62	11	2	85%
6月15日	(-11)85	58	9	7	87%

● 累計額 [6月29日現在]

ニコニコ箱	840,500 円	ロータリー <small>さんさん</small> 燦燦基金	233,564 円	ポリオ募金	249,200 円
-------	-----------	--------------------------------	-----------	-------	-----------

■ 次週のプログラム [7月13日]

臨時総会・各委員会計画発表

創 立 昭和12年10月
 例 会 日 火曜日 12:30~13:30
 例 会 場 三翠園ホテル TEL(822)0131
 事 務 局 高知市本町3丁目2-15 高知新聞放送会館6階
 TEL(824)8660 FAX(824)2529
 E-mail shinairc@joy.ocn.ne.jp
 HPアドレス <http://www.221.ne.jp/kochirc/>